

一般国道9号（名和淀江道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ

鳥取県西伯郡名和町

門前第2遺跡 (菖蒲田地区)

鳥取県教育文化財団調査報告書
106

門前第2遺跡
(菖蒲田地区)

二〇〇五

財団法人
鳥取県教育文化財団

2005

財団法人 鳥取県教育文化財団
国土交通省 倉吉河川国道事務所

一般国道9号（名和淀江道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ

鳥取県西伯郡名和町

門前第2遺跡

（菖蒲田地区）

2005

財団法人 鳥取県教育文化財団
国土交通省 倉吉河川国道事務所

序

近年、鳥取県では妻木晩田遺跡、青谷上寺地遺跡をはじめとする古代の重要な遺跡の発見が相次いでおり、当時の集落の姿や暮らしの様子が具体的に語られるようになりつつあります。

先人が残した素晴らしい遺産を後世に伝承することは、現在に生きる私たちの重要な責務です。

ところで、県内においては、現在、山陰自動車道の整備が着々と進められているところでありますが、当財団は、国土交通省からの委託を受け、この事業に係わる一般国道9号(東伯中山道路・名和淀江道路)の改築に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を実施してきました。

そのうち、名和町にある門前第2遺跡では、縄文時代早期の配石と土坑の遺構群、弥生時代の墳丘墓や弥生時代終末から古墳時代にかけての集落跡、さらには中世の耕作痕跡など、この地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができました。発掘調査中には、現地説明会を開催し多くの方々の御来場をいただいたところですが、このたび、調査結果を報告書としてまとめることができました。

この報告書が、今後、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財に対する理解がより深まることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力を頂きました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

財団法人 鳥取県教育文化財団
理事長 有田博充

序 文

一般国道9号は、起点の京都府京都市から山口県下関市にいたる、総延長約691kmの幹線道路であり、西日本日本海沿岸地域の産業・経済活動の大動脈として、地域住民の生活と密着し大きな役割を果たしています。

このうち、国土交通省倉吉河川国道事務所は、東伯郡湯梨浜町から米子市(鳥取 島根県境)までの76.6kmを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところです。

名和淀江道路は、西伯郡名和町から西伯郡大山町にかけての、国道9号の渋滞緩和、荒天時の交通障害の解消、また、災害時の緊急輸送の代替道路確保、などを目的として計画された高規格幹線道路(自動車専用道路)であり、鋭意事業に着手しているところです。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の3の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

平成16年度は、「名和中畝遺跡」、「名和飛田遺跡」、「門前上屋敷遺跡」、「門前第2遺跡」の4遺跡について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査の委託契約を締結し、同埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われました。

本書は、上記の「門前第2遺跡」の調査成果をまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深めるため、ならびに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることをご理解いただければ幸いです。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集にいたるまで御尽力いただいた財団法人鳥取県文化財団の関係者に対して、心から感謝申し上げます。

平成17年3月

国土交通省 倉吉河川国道事務所
所 長 嘉 本 昭 夫

例 言

1. 本報告書は、「一般国道9号（名和淀江道路）改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査」として実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本報告書に収載した遺跡の所在地は、以下のとおりである。
名和町大字門前字菖蒲田 164 ほか
3. 本報告書における方位、座標値は、国土座標第V系の座標値である。また、レベルは海拔標高を表す。
4. 本報告書に掲載した地図は、国土地理院発行の1/25,000地形図「淀江」「御来屋」「船上山」を使用した。
5. 本発掘調査にあたり現地指導および出土した鉄関連遺物の分類をたたら研究会委員穴澤義功氏に、土器の胎土分析を岡山理科大学白石純氏に、土壌のソフトX線分析を立命館大学高橋学氏に、土壌分析を奈良文化財研究所宮路淳子氏に、石材鑑定を遠藤勝壽氏にそれぞれお願いした。また白石、高橋、宮路の各氏には玉稿を賜った。記して深謝いたします。
6. 本報告にあたり、遺跡の航空写真撮影を専門業者に、現地における基準点測量および地形測量を測量コンサルタントに委託した。
7. 遺物の実測・浄書は調査員および室内整理作業員が行った。
8. 掲載図面は、調査員が作成したものを調査員および室内整理作業員が浄書を行った。
9. 現場および遺物の写真撮影は調査員が行った。
10. 発掘調査によって作成された図面、写真などの記録類、および出土遺物などは鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。
11. 本報告書の作成は調査員の協議に基づき執筆し、中森が編集した。文責は目次および文末に記した。
12. 現地調査および報告書の作成にあたっては上記の方々のほかに、多くの方々からご指導、ご助言およびご支援いただいた。明記して深謝いたします。（敬称略、順不同）

池澤俊幸（高知県教育委員会） 遠部 慎（南串山町教育委員会） 金田明大（奈良文化財研究所）
木田 真、酒井雅代（智頭町教育委員会） 角田徳幸、宮本正保、守岡正司（以上島根県埋蔵文化財調査センター） 佐伯純也（米子市教育文化事業団） 辻 信広（名和町教育委員会） 西尾克己（島根県教育庁） 松木武彦（岡山大学文学部） 宮内慶介（飯能市教育委員会） 百瀬正恒（元京都市埋蔵文化財研究所） 渡辺貞幸、山田康弘（島根大学法文学部） 吉成承三（高知県文化財団埋蔵文化財センター）

凡 例

1. 発掘調査時における遺構名、番号は報告書作成時に大幅に変更している。新旧の対照は本文中第3章の第1節に示した。なお、遺構の呼称は、例えば土坑状遺構については土坑とし、他の遺構についても「状遺構」を省略した。
2. 遺跡の略称はMN 2とした。
3. 本報告書における遺物番号は次のように記す。
番号のみ：土器、陶磁器、土製品 S：石器 F：鉄製品・鉄滓、B：青銅製品
また基本的に土器・陶磁器は1／3および1／4、土製品、石器、鉄製品・鉄滓は1／3の大き
さで掲載した。
4. 挿図、遺構・遺物にはそれぞれ通し番号をつけた。
5. 本文中、挿図中および写真図版の遺物番号は一致する。
6. 遺物実測図のうち須恵器は断面を黒塗り、瓦質土器は網掛けし、それ以外は白抜きであらわした。
7. 遺物には遺跡名略称、グリッド名、遺構名、取上げ番号、取上げ年月日を基本的に注記した。
8. 遺構、遺物に用いたスクリーントーンはそれぞれ以下のものを表す。
地山  焼土  赤彩  磨面 
9. 製鉄関連遺物に関しては、強力磁石（TUJIMA PUP-M）と特殊金属探知機による鉄塊
の抽出と、肉眼観察による考古学的な遺物の分類を行った。資料の分類、抽出、ならびに資料観
察表の作成は穴澤義功氏に依頼し、ご指導賜った。
10. 遺物観察表は製鉄関連遺物を除き、時期ごとに各章末に掲載した。表については以下のとおりと
する。
 - (1) 土器についての法量は基本的に口径、器高を記載した。すべての遺物に対して、復元したも
のは※印、残存値は△印を数値の前に付している。単位はcmである。
 - (2) 製鉄関連遺物についての法量は最大長、最大幅、最大厚、重量を計測した。
磁着度は鉄滓分類用の「標準磁石」を用いて資料との反応を1～8までの数字で表現したも
ので、数値が大きいほど磁着度が強い。メタル度は小型金属探知機によって判定された金属
鉄の残留度を示すもので、基準感度は次のとおりである。
H (○)：Hは最高感度でごく小さな金属鉄が残留することを示す。
M (◎)：Mは標準感度で一般的な大きさや金属鉄が残留することを示す。
L (●)：Lは低感度でやや大きな金属鉄が残留することを示す。
特L (☆)：特Lは低感度でL以上の大きな金属鉄が残留することを示す。
11. 遺構・遺物の時期決定には下記の文献を参照した。
清水真一 1992「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年』（山陽・山陰編）木耳社
牧本哲雄 1999「古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅷ、園第6遺跡』鳥取県教育文化財団
岡野雅則 2004「古墳時代中期から後期の土器について」『古御堂笹尾山遺跡・古御堂新林遺跡』
鳥取県教育文化財団
八峠 興 1998「山陰における中世土器の変遷について」『中近世土器の基礎研究』XⅢ
山本信夫 2000『大宰府条坊跡』XⅤ 太宰府市教育委員会

目 次

第1章 調査の経緯と経過

- 第1節 調査の経緯 …………… (西川) 1
- 第2節 調査の経過…………… (中森) 2
- 第3節 調査体制…………… 3

第2章 位置と環境

- 第1節 地質学的、地理的環境 …………… (浜田) 4
- 第2節 歴史的環境…………… (浜田) 4

第3章 調査の概要

- 第1節 調査の方法 …………… (中森) 7
- 第2節 調査地内の堆積…………… (中森) 7

第4章 縄文時代の調査

- 第1節 概要 …………… (中森) 13
- 第2節 早期の遺構と遺物 …………… (中森) 13
- 第3節 後期以降の遺構と遺物 …………… (中森) 22

第5章 弥生時代～古墳時代中期の調査

- 第1節 概要…………… (中森) 29
- 第2節 検出した遺構と遺物 …………… (中森、湯川、森本) 29

第6章 古墳時代後期～古代の調査

- 第1節 概要 …………… (中森) 59
- 第2節 検出した遺構と遺物 …………… (中森、湯川) 59

第7章 中世前期の調査

- 第1節 概要…………… (中森) 72
- 第2節 検出した遺構と遺物 …………… (中森、湯川) 72

第8章 中世後期以降の調査

- 第1節 概要 …………… (湯川) 90
- 第2節 遺構と遺物 …………… (中森、湯川) 90

第9章 時期不明の遺構と遺物

- 第1節 概要 …………… (中森) 98
- 第2節 検出した遺構 …………… (浜田) 98

第10章 特論

1. 門前第2、門前上屋敷遺跡の地形の成り立ち…………… 浜田真人 106
2. 大山山麓における縄文時代早期の様相…………… 中森 祥 109
3. 門前第2 遺跡配石群出土炭化材の放射性炭素年代測定…………… 加速器分析研究所 115
4. 縄文時代早期配石群出土炭化材の樹種…………… パリノ・サーヴェイ 116
5. 門前第2 遺跡における古墳時代中期の変化について…………… 湯川善一 118

6. 竪穴住居・土坑出土炭化材の樹種	パリーノ・サーヴェイ	122
7. 門前第2遺跡集石1出土炭化材の放射性炭素年代測定	加速器分析研究所	125
8. 門前第2遺跡出土土器の胎土分析	白石 純	126
9. 門前第2遺跡・門前上屋敷遺跡の軟X線分析	高橋 学	134
10. 門前第2遺跡から検出された古耕作土の土壤微細形態について	宮路洋子・百原香織	138
11. 門前第2遺跡の花粉化石群集・植物珪酸体	パレオ・ラボ	142
12. 鳥取県、門前第2遺跡における自然科学分析	古環境研究所	149
13. いわゆる「竪穴」について	西川 徹	158
第11章 まとめ	(中森、浜田、湯川)	165

挿 図 目 次

図1 竪穴地位置	1	図35 竪穴住居9出土遺物(1)	49
図2 周辺遺跡分布	5	図36 竪穴住居9出土遺物(2)	50
図3 竪穴地地形測量	8	図37 掘立柱建物1	52
図4 竪穴地内土層断面(1)	10	図38 土坑28～30、坑土1～4	53
図5 竪穴地内土層断面(2)	11	図39 土坑31～37、溝3・4	54
図6 竪穴地内土層断面(3)	12	図40 遺構外出土遺物	55
図7 縄文時代遺構分布	14	図41 古墳時代後期～古代遺構分布	59
図8 早期遺構分布	15	図42 竪穴住居10・11	60
図9 配石1～4	16	図43 竪穴住居10・11変遷	61
図10 配石5～8	18	図44 竪穴住居10・11出土遺物	61
図11 配石9・10	19	図45 竪穴住居12および出土遺物	62
図12 土坑1～8	20	図46 竪穴住居9上層遺物出土状況および遺物	64
図13 竪穴地内出土縄文土器(1)	21	図47 溝群	66
図14 土坑(1)	22	図48 土坑38および出土遺物	67
図15 土坑(2)	24	図49 土器留遺物出土状況	68
図16 土坑(3)	25	図50 土器留出土遺物	69
図17 竪穴地内出土土器(2)	26	図51 遺構外出土遺物	69
図18 竪穴地内出土石器	26	図52 掘立柱建物2～4	73
図19 弥生時代終末～古墳時代中期遺構分布	31	図53 C・D区耕作痕	74
図20 門前1号墓(1)	32	図54 A・B区耕作痕	75～76
図21 門前1号墓(2)	33	図55 テラス1～3	78
図22 集石1	34	図56 土坑39～46および出土遺物	79
図23 集石1～3および出土遺物	35	図57 溝5	80
図24 竪穴住居1	36	図58 遺構外出土遺物(1)	81
図25 竪穴住居2・3、溝1	38	図59 遺構外出土遺物(2)	82
図26 竪穴住居4および竪穴住居2～4変遷	39	図60 遺構外出土遺物(3)	83
図27 竪穴住居4出土遺物	40	図61 竪間道遺物構成図(1)	84
図28 竪穴住居5	41	図62 竪間道遺物構成図(2)	85
図29 竪穴住居6、竪穴1出土遺物	42	図63 中世後期遺構分布	90
図30 竪穴住居6遺物出土状況および遺物	43	図64 土坑47、溝6および出土遺物	91
図31 竪穴住居6①層遺物出土状況および遺物	44	図65 溝7	92
図32 竪穴住居7～9、竪穴2・3	46	図66 溝7、土坑48および出土遺物	93
図33 竪穴住居7～9、竪穴2・3変遷 および出土遺物	47	図67 溝8	94
図34 竪穴住居9a・b	48	図68 遺構外出土遺物(1)	95
		図69 遺構外出土遺物(2)	96

図 70	時期不明遺構分布	99	図 87	各遺跡 (弥生後期末～古墳初観) との比較 (Rb Sr)	130
図 71	土坑 49 ～ 53	100	図 88	各遺跡 (古墳後期) との比較 (K Ca)	131
図 72	土坑 54 ～ 63	101	図 89	各遺跡 (古墳後期) との比較 (Rb Sr)	131
図 73	土坑 64 ～ 70	102	図 90	各遺跡 (古代) との比較 (K Ca)	132
図 74	溝 9・10	103	図 91	各遺跡 (古代) との比較 (Rb Sr)	132
図 75	遺構外出土石製品	104	図 92	各遺跡 (中世) との比較 (K Ca)	133
図 76	遺跡および周辺地形(南東から遺跡を望む)	106	図 93	各遺跡 (中世) との比較 (Rb Sr)	133
図 77	断面概念図 (A - A' 断面)	106	図 94	遺跡周辺図	134
図 78	門前第 2 遺跡尾根部 土坑内壁にみられる基盤 (地山) の地層	107	図 95	門前第 2 遺跡試料採取地点	137
図 79	A・B 区谷部堆積層下のローム層	107	図 96	門前上層第 2 遺跡試料採取地点	137
図 80	配石・集石遺構図	110	図 97	IV～VI 層高俊解析	141
図 81	縄文時代早期遺跡変遷	113	図 98	VI～VII 層高俊解析	141
図 82	配石 5 ～ 9 炭化材出土地点	117	図 99	鉄の集積層モデル	141
図 83	弥生古墳移行期から 古墳時代主要遺構図	118	図 100	トレンチ 1 の核動細胞珪酸体分布図	148
図 84	遺跡内での時期別による粘土比較 (K Ca)	129	図 101	トレンチ 2 の核動細胞珪酸体分布図	148
図 85	遺跡内での時期別による粘土比較 (Rb Sr)	129	図 102	門前第 2 遺跡 (南壁) における植物 珪酸体分析結果	152
図 86	各遺跡 (弥生後期末～古墳初観) との 比較 (K Ca)	130	図 103	門前第 2 遺跡における花粉ダイアグラム	157
			図 104	落し穴の配置・形態	162

挿 表 目 次

表 1	新旧遺構名対照	7	表 19	時期不明ビット一覧	105
表 2	縄文時代土器観察表	27	表 20	配石・集石一覧	110
表 3	縄文時代石器観察表	27	表 21	大山山麓縄文時代早期遺跡一覧	113
表 4	縄文時代ビット一覧	28	表 22	縄文時代早期年代測定値	115
表 5	弥生時代終末～古墳時代中期ビット一覧	56	表 23	縄文時代早期樹種同定結果	116
表 6	弥生時代中期～古墳時代中期土器観察表	57	表 24	茶畑遺跡群集落消長表	119
表 7	弥生時代終末～古墳時代前期石製品観察表	58	表 25	門前第 2 遺跡型穴住居	120
表 8	古墳時代後期～古代土器観察表	70	表 26	型穴住居・土坑出土樹種同定結果	122
表 9	古墳時代後期～古代石製品観察表	71	表 27	集石 1 出土炭化材年代測定値	125
表 10	古墳時代後期～古代ビット一覧	71	表 28	門前第 2 遺跡出土土器の分析値一覧表	128
表 11	鉄間道遺物・銅製品観察表	82	表 29	花粉化石産出一覧表	144
表 12	中世前期ビット一覧	87	表 30	試料 1 g 当たりの核動細胞珪酸体個数	146
表 13	中世前期土器・陶磁器観察表	88	表 31	鳥取県門前第 2 遺跡の植物珪酸体分析結果	151
表 14	中世前期石製品観察表	89	表 32	門前第 2 遺跡における花粉分析結果	156
表 15	中世前期木製品観察表	89	表 33	「落し穴」出土炭化材分析値	159
表 16	中世後期以降土器・陶磁器観察表	97	表 34	「落し穴」出土土器	160
表 17	時期不明遺構出土土器観察表	105	表 35	周辺遺跡集落消長表	165
表 18	時期不明石製品観察表	105			

図版目次

<カラー図版>

- 1-1 調査前遠景（北から）
- 2 調査前全景（北から）
- 2 配石群検出状況（北東から）
- 3-1 竪穴住居6溝D（北西から）
- 2 竪穴住居6出土金床石
- 3 竪穴住居6溝D暗渠部（東から）
- 4 竪穴住居5・6、竪穴1完掘状況（南東から）
- 4-1 門前1号墓検出状況（北東から）
- 2 門前1号墓土層断面（北北東から）
- 5-1 門前1号墓土層断面（北西から）
- 2 集石1検出状況（南から）
- 6 A・B区竪穴住居群完掘状況（南から）
- 7-1 土器溜出土遺物
- 2 中世前期耕作痕検出状況（B区、南西から）
- 3 中世前期耕作痕完掘状況（C・D区、南東から）
- 8 調査地内出土中世～近世初頭陶磁器

<図版>

- 1-1 調査前全景（西から）
- 2 調査前遠景（南から）
- 2 配石群検出状況（北東から）
- 3-1 配石5検出状況（西から）
- 2 配石10検出状況（東から）
- 3 配石6～9検出状況（北から）
- 4 配石8遺物出土状況（北西から）
- 5 配石8出土遺物
- 4-1 配石2～4検出状況（東から）
- 2 配石1検出状況（北から）
- 3 配石6完掘状況（北西から）
- 4 早期遺構群完掘状況（北東から）
- 5-1 土坑群完掘状況（北西から）
- 2 土坑23完掘状況（北西から）
- 3 土坑22・57完掘状況（東から）
- 4 土坑14完掘状況（南東から）
- 5 土坑2完掘状況（南から）
- 6-1 土坑17完掘状況（北西から）
- 2 土坑24完掘状況（東から）
- 3 土坑15完掘状況（北から）
- 4 土坑20床面検出状況（南東から）
- 5 C・D区完掘状況（西から）
- 6 土坑18完掘状況（南西から）
- 7 土坑11完掘状況（南から）
- 7-1 土坑9完掘状況（北西から）
- 2 土坑12完掘状況（北から）
- 3 調査地内出土縄文土器
- 8-1 門前1号墓検出状況（北東から）
- 2 門前1号墓土層断面、土坑25・27完掘状況（南西から）
- 9-1 門前1号墓列石3断層部（南東から）
- 2 門前1号墓土層断面（北東から）
- 3 土坑27完掘状況（東から）
- 4 土坑25土層断面（南から）
- 5 集石3検出状況（東から）

- 6 土坑25土層断面（南西から）
- 10-1 集石1検出状況（北から）
- 2 集石1-1土層断面（東から）
- 3 集石1-2土層断面（西から）
- 4 集石1-1・2検出状況（南から）
- 5 集石1完掘状況（南から）
- 11 A・B区完掘状況（北から）
- 12-1 竪穴住居2～4土層断面（北東から）
- 2 竪穴住居4出土土器
- 13-1 竪穴住居4遺物出土状況（北から）
- 2 竪穴住居4遺物出土状況（南西から）
- 3 竪穴住居4床面検出状況（北東から）
- 4 竪穴住居4溝E出土土器
- 5 竪穴住居4完掘状況（東から）
- 14-1 竪穴住居4溝D・E土層断面（南から）
- 2 竪穴住居2P1、礫出土状況（南東から）
- 3 溝1検出状況（北西から）
- 4 竪穴住居2完掘状況（北東から）
- 15-1 竪穴住居1出土遺物
- 2 竪穴住居1土層断面（南から）
- 3 竪穴住居1床面検出状況（南東から）
- 4 竪穴住居1床面遺物出土状況（南東から）
- 5 竪穴住居1完掘状況（南東から）
- 16-1 竪穴住居6①層遺物出土状況（東から）
- 2 竪穴住居6①層遺物出土状況（東から）
- 3 竪穴住居6出土遺物
- 17-1 竪穴住居6床面検出状況（南東から）
- 2 竪穴住居6溝D土層断面（北西から）
- 3 竪穴住居6出土遺物
- 4 竪穴住居6溝D（南東から）
- 5 竪穴住居4・6完掘状況（南西から）
- 18-1 竪穴住居5、竪穴1、掘立柱建物1完掘状況（南東から）
- 2 竪穴住居5、溝2完掘状況（南から）
- 19-1 竪穴住居9P1礎盤石検出状況（南東から）
- 2 竪穴住居9P4礎盤石検出状況（北西から）
- 3 竪穴住居9出土礎盤石
- 4 竪穴住居9完掘状況（北西から）
- 20 竪穴住居7～9、竪穴2出土土器
- 21-1 竪穴住居7、竪穴2土器出土状況（南東から）
- 2 竪穴住居9土器(61)出土状況（北東から）
- 3 竪穴住居9床面検出状況（南東から）
- 4 竪穴住居9P2土器(62)出土状況（北東から）
- 22-1 竪穴住居9出土土器
- 2 竪穴住居9出土礫
- 3 竪穴住居7～9土層断面（北西から）
- 4 竪穴住居7～9完掘状況（北から）
- 23-1 土坑29完掘状況（北から）
- 2 土坑28完掘状況（北西から）
- 3 土坑28出土遺物
- 4 土坑29床面遺物出土状況（北西から）
- 5 C・D区X層下面完掘状況（南西から）
- 6 土坑35土層断面（南東から）

- 24 - 1 T 5 土層断面 (図 4 B - B'、西から)
 - 2 T 6 土層断面 (図 4 C - C'、北から)
 - 3 遺構外出土土器
 - 4 調査地内出土土器 (弥生時代中～後期)
 - 5 遺構外出土土器
- 25 調査地内出土土器 (弥生時代終末～古墳時代前期)
- 26 - 1 竪穴住居 11 および遺構外出土土器
 - 2 竪穴住居 11 床面検出状況 (南から)
 - 3 竪穴住居 11 完掘状況 (南西から)
- 27 - 1 竪穴住居 11 出土鉄製品
 - 2 竪穴住居 11 出土鉄製品
 - 3 竪穴住居 11 出土鉄製品 (X線)
 - 4 竪穴住居 10・11 完掘状況 (南西から)
- 28 - 1 竪穴住居 12 土層断面 (東から)
 - 2 竪穴住居 12 床面遺物出土状況 (北東から)
 - 3 竪穴住居 12、竪穴 4 完掘状況 (北から)
- 29 - 1 竪穴住居 12 出土土器
 - 2 竪穴住居 12 出土土器
 - 3 竪穴住居 9 上層出土土器
 - 4 IV層出土鉄関連遺物
 - 5 竪穴住居 9 上層遺物出土状況 (南東から)
- 30 - 1 溝群検出状況 (東から)
 - 2 溝群完掘状況 (南東から)
 - 3 溝群完掘状況 (西から)
- 31 - 1 土器溜検出状況 (北から)
 - 2 土器溜土層断面 (南西から)
 - 3 土坑 38 完掘状況 (北から)
 - 4 土坑 38 土器出土状況 (東から)
 - 5 土坑 38 出土土器
- 32 調査地内出土土器 (古墳時代後期～古代)
- 33 - 1 テラス 2 完掘状況 (北西から)
 - 2 テラス 3 完掘状況 (南西から)
 - 3 調査地内出土中世前期土師器皿
- 34 - 1 A・B区耕作痕検出状況 (南から)
 - 2 A区耕作痕検出状況 (南西から)
 - 3 B区耕作痕検出状況 (南から)
 - 4 A・B区耕作痕完掘状況 (南から)
- 35 - 1 C・D区耕作痕検出状況 (東から)
 - 2 調査地内出土馬具
 - 3 調査地内出土馬具 (X線)
 - 4 C・D区Ⅷ層下面完掘状況 (南西から)
- 36 - 1 土坑 39 完掘状況 (南西から)
 - 2 土坑 40・41 (南東から)
 - 3 掘立柱建物 2・3 完掘状況 (北から)
 - 4 テラス 4 完掘状況 (南西から)
 - 5 中世前期遺物包含層出土鉄関連遺物
- 37 調査地内出土土器 (中世前期)
- 38 - 1 溝 7 - 2・3 底面掘削痕 (東から)
 - 2 土坑 48 底面検出状況 (東から)
 - 3 土坑 48 ほか出土土器
 - 4 中世後期遺構群完掘状況 (南西から)
- 39 - 1 溝 7 - 1・2 間高まり部 (西から)
 - 2 溝 7 - 2 東端完掘状況 (南東から)
 - 3 溝 7 - 1 土層断面 (南西から)
 - 4 溝 7 - 3 完掘状況 (東から)
- 40 - 1 土坑 47 土層断面 (西から)
 - 2 土坑 47、溝 6 検出状況 (南から)
 - 3 土坑 47 南端掘削痕 (北から)
 - 4 土坑 47 東端掘削痕 (西から)
 - 5 土坑 47、溝 6 完掘状況 (北から)
- 41 - 1 調査地内出土鉄関連遺物
 - 2 調査地内出土銅製品
 - 3 調査地内出土土器
 - 4 調査地内出土鉄関連遺物
 - 5 溝 7 - 3 出土塚
 - 6 調査地内出土石製品
 - 7 遺構内出土石製品
- 42 - 1 土坑 50・51 検出状況 (北から)
 - 2 土坑 50 底面検出状況 (南から)
 - 3 土坑 51 底面検出状況 (南から)
 - 4 土坑 52 底面検出状況 (北西から)
 - 5 土坑 49 底面検出状況 (東から)
- 43 - 1 土坑 58 完掘状況 (東から)
 - 2 土坑 56 完掘状況 (西から)
 - 3 土坑 65 完掘状況 (南から)
 - 4 土坑 33 塚出土状況 (北から)
 - 5 土坑 67 完掘状況 (北東から)
 - 6 土坑 70 完掘状況 (南から)
- 44 - 1 土坑 62 完掘状況 (北東から)
 - 2 土坑 63 完掘状況 (北東から)
 - 3 土坑 54・55 土層断面 (西から)
 - 4 土坑 69 完掘状況 (東から)
 - 5 G 6 グリッド土坑群 (南から)
- 45 - 1 T 4 土層断面 (図 6 G - G'、南西から)
 - 2 T 4 土層断面 (西から)
 - 3 T 7 土層断面 (南東から)
 - 4 T 2 東土層断面 (図 6 E - E'、北西から)
 - 5 T 2 西土層断面 (図 6 E - E'、北東から)
- 46 - 1 調査地内出土石製品
 - 2 調査地内出土石製品
 - 3 E区完掘状況 (南西から)
 - 4 調査後全景 (南西から)
- 47 - 1 縄文時代早期炭化木材断面線写真
 - 2 配石 5 炭化材出土状況 (北西から)
- 48 竪穴住居 1・12 出土炭化木材断面線写真
 49 竪穴住居 12 出土炭化木材断面線写真
 50 A・B区植物珪酸体断面線写真
 51 A・B区花粉化石断面線写真
 52 C・D区植物珪酸体断面線写真
 53 C・D区花粉化石断面線写真
 54 門前第 2・門前上層敷遺跡地域概念図
 55 門前第 2・門前上層敷遺跡周辺立体図
 56 門前第 2 遺跡 (第 4 地点)
- 57 - 1 門前第 2 遺跡軟 X線写真 (第 4 地点断面)
 - 2 門前第 2 遺跡軟 X線写真 (第 4 地点断面)
- 58 門前第 2 遺跡 (第 3 地点)
- 59 - 1 門前第 2 遺跡軟 X線写真 (第 3 地点)
 - 2 門前第 2 遺跡軟 X線写真 (第 3 地点)
- 60 門前上層敷遺跡地層断面図
- 61 - 1 門前上層敷遺跡軟 X線写真
 - 2 門前上層敷遺跡軟 X線写真
- 62 土壌の微細形態

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

門前第2遺跡（菖蒲田地区）は、将来の山陰自動車道を想定した一般国道9号（名和淀江道路）の改築工事に伴って調査を実施した遺跡であり、鳥取県西伯郡名和町大字門前地内の道路ルート内に存在している。調査地は大山から続く山麓台地の北側突端付近に当たり、台地が開析されたことによって形成された尾根の頂部に位置する。遺跡東側の名和川西岸の河岸段丘上には、同じく本年度に名和調査事務所が調査を実施した門前上屋敷遺跡が存在する。

一般国道9号（名和淀江道路）の改築工事に伴う発掘調査は、平成12年度から淀江町・大山町・名和町の3町にわたって実施され、報告書が順次刊行されている。

門前第2遺跡（菖蒲田地区）は、周知の埋蔵文化財包蔵地である門前第2遺跡に隣接していることから、遺跡が菖蒲田地区にも存在している可能性が予想された。そのため、国土交通省倉吉河川国道事務所より埋蔵文化財の確認調査についての依頼を受けた名和町教育委員会が、国及び県の補助金を受けて平成14年度に試掘調査を実施したところ、中世の盛土造成層および古墳時代の包含層を検出し、遺跡の存在が確認された。この結果を受け、鳥取県教育委員会事務局文化課と国土交通省倉吉河川国道事務所が協議を行ったが、遺跡の現状保存は困難との判断にいたり、国土交通省倉吉河川国道事務所は文化財保護法等第57条の3に基づく発掘通知を鳥取県教育委員会教育長に提出した。その上で、記録保存のための事前発掘調査の指示を受けた国土交通省倉吉河川国道事務所は、発掘調



図1 調査地位置 (S = 1/10,000)

査を財団法人鳥取県教育文化財団に委託した。そこで、財団法人鳥取県教育文化財団理事長から鳥取県教育委員会教育長に文化財保護法第57条に基づく発掘届を提出し、埋蔵文化財センター名和調査事務所が調査を実施した。(西川)

第2節 調査の経過

調査は4月9日に調査前の航空写真撮影、続いて基準点測量をそれぞれ専門業者に委託して始まった。ただ、国土交通省による調査地への重機などの進入路敷設工事が予定どおりに施工できなかったことから、掘り下げ作業に着手できずにいた。そのため、調査地周辺の私有地を通過させてもらう協議を土地所有者などと重ね、ようやく5月17日より重機で表土剥ぎを行なった。

調査地は休耕田であり、その区画単位によって東からA～E区に区分をした。そのA・B区より人力による掘り下げ作業を開始し、平坦部中央から東へ抜ける弧状の浅い谷(谷2)が検出された。事前の名和町教育委員会による試掘結果から、本調査地の遺構面は1面と想定されていたが、この谷部を中心に中世前期、古墳時代前期・後期、弥生時代後期～終末、縄文時代早期・後期の遺構・遺物、および遺構面が確認された。谷部の堆積は厚かったが、表土剥ぎを行なってしまっていたため重機の進入が不可能であり、すべてを人力で掘り下げた。

一方C・D区においては、その地形および試掘結果から、深い谷部(谷1)の存在が判明していたが、試掘では湧水のために必要な掘削深度は確認されていなかった。そこでこの谷部へトレンチを入れたところ、A・B区において確認された遺構面とほぼ対応することがわかった。しかし、谷1は谷2に比べ土量が多く、工期内にすべてを人力によって掘削することは不可能と考えた。また、トレンチを複数本追加し、遺物包含層中に含まれる遺物量や出土傾向についても観察したが、中世前期包含層を除き遺物が希薄だったことから、中世前期層を除く各包含層については重機を使用して掘り下げていくこととした。

調査が終盤を迎えた11月6日には現地説明会を行ない、天気にも恵まれ多くの参加者があった。

その後、谷2(B区)における最終遺構面と考えていた面の下層で、弥生時代の墳丘墓、さらに下層で縄文時代早期の配石群を検出した。そしてこれらの掘り下げなどを行ない、現地におけるすべての作業を12月8日に終えた。

また、縄文時代早期の遺構群は中四国地方においてその確認例が極めて少ないものであったことから、1月後半には報道機関へ資料提供を行なった。(中森)

第3節 調査体制

調査は、以下の体制で実施した。

○調査主体

財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 有田 博充

事務局 長 中村 登

埋蔵文化財センター

所 長 田中 弘道 (兼・県埋蔵文化財センター所長)

次 長 (事務) 竹内 茂

次 長 (専門) 加藤 隆昭

調 査 課

課長 (兼次長) 加藤 隆昭

企画調整班長 山根 雅美

文化財主事 大野 哲二、下江 健太

庶 務 課

課長 (兼次長) 竹内 茂

主 幹 福田 高之

事務職員 大川 秋子、谷垣真寿美、山根 美代、小谷 有里

○調査担当

名和調査事務所

所 長 國田 俊雄

班 長 西川 徹

文化財主事 中森 祥 (門前第2遺跡担当)

浜田 真人 (門前第2遺跡担当)

森本 倫弘 (門前上屋敷遺跡担当)

加藤 裕一 (名和中畝遺跡担当)

木山 清貴 (名和中畝遺跡担当)

北 浩明 (名和飛田遺跡担当)

調 査 員 湯川 善一 (門前第2遺跡担当)

日置 智 (名和中畝遺跡担当)

三木 雅子 (名和飛田遺跡担当)

調査補助員 遠藤万須美、中橋 智明、秦 美香、山本 宗昭

事務補助員 金田 かおる

○調査指導 鳥取県教育委員会事務局文化課

○調査協力 名和町教育委員会